

# 宮城山岳通信第16号

## 目次

巻頭言	富塚和衛 . . . . . 1~2 頁
定例役員会報告	事務局 . . . . . 2~4 頁
宮城支部山行報告	
☆冬山山行（鷹の巣山）（共益事業山行）	佐藤昭次郎 . . . . . 4~5 頁
☆厳冬期山行（三方倉山）（共益事業山行）	佐藤昭次郎 . . . . . 5 頁
☆早春山行（霊山）（共益事業山行）	千石信夫 . . . . . 5~6 頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
☆該当なし	
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
☆支部連絡会議及び講演会参加報告	富塚和衛 . . . . . 6~7 頁
平成31年4月～平成31年7月の行事予定	事務局 . . . . . 7 頁
編集後記	遠藤銀朗 . . . . . 8 頁

## 巻頭言（雪形）

支部長 富塚和衛

家庭菜園を勤しむ者は春の訪れが待ち遠しい。春野菜の種を求めに野菜の種専門店に足を運び、あれこれ品定めをするのも楽しみの一つだ。大根、ニンジン等の種を買い求め、種を蒔く時期を尋ねると、「お彼岸を過ぎてから」と教えてくれた。理由は寒い時期に蒔くと抽苔の恐れがあるからだと言う。「暑さ寒さも彼岸まで」の謂れのとおり野菜にとってもお彼岸は季節の節目なのかもしれない。春野菜を蒔く時期になると、七北川沿いにある我が家の菜園畑から望む泉ヶ岳も春を迎える準備が始まる。ゲレンデの雪が消えると残雪は減り続けて最後には賽の河原に残るだけとなり、「山笑う」季節を迎える。この残雪の移ろいを見ていると、故郷の山「栗駒山」の残雪「雪形」を思い出す。栗駒山には、田植え時期になると二つの雪形が見て取れる。一つは山名の由来にもなった天狗平の分岐下あたりが頭で、御室付近が胴体の「駒姿（左側）」。そして笠を被り杖を持って種を蒔いている小僧姿に見える「種蒔き坊主（右側）」だ。また、仕事をしていた頃通勤時に見た農耕と関わりのある山名の水引入道に現れる「種蒔き爺さん」も懐かしい。

雪形は、山腹に山肌と残雪が織り成す模様を麓の人が何かの形に見立てて名付けた自然

現象だ。各地にある駒ヶ岳の「馬の形」や常念岳の「常念坊」、蝶ヶ岳の「羽を広げた蝶」、五竜岳の「武田菱」、白馬岳の「代掻き馬」など山名の由来となっているものも少なくない。

特筆すべきは、雪形の多くが農事暦・自然暦として、農作業を行う時期の目安に用いられてきたことだ。「種蒔き」などはその代表例ではないだろうか。畏敬の念を持ち自然との係わりを大事にしてきた大和民族であればこそなのかもしれない。山の雪形の謂れを知り、麓の人々の山との係わりを知るのも山の楽しみ方の一つかもしれない。

「雪形」を記して心配が出て来た。それは地球温暖化による積雪量の変化だ。温暖化で気温が上昇すれば雪の降る量が少なくなり雪解けも早いはず。「雪形」を見て農業に勤しんできた農家にとって影響が出まいかと。今年の泉ヶ岳の雪解けの早さを目の当たりにしてふと不安が過った。今年は水不足にならないかも。

## 定例役員会議事録

### ☆平成 31 年 1 月定例役員会議事録

日 時：1 月 16 日(木) 18:30～20:10  
場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室  
出席者：遠藤副支部長、草野、佐藤（昭）、  
柴崎、千石、高橋（二）、千葉  
計 7 名

#### 《報告事項》

- (1) 富塚支部長が家族のご不幸により欠席のため、副支部長の遠藤が議長を代行することが提案され、了承された。
- (2) 総務・財務委員会からの報告
  - ① 山岳関係機関からの受理状況
    - ・ 2019 年度「特別補助金」募集のお知らせ
    - ・ 第 8 回登山教室指導者養成講習会開催のお知らせ
    - ・ 山形「樹氷原を滑る会」募集のお知らせ
  - ② 「篠田軍治氏の日本山岳会名誉会員取り消し」を求める趣意書
  - ③ 第 35 回全国支部懇談会のお知らせ
- (3) 山行集会委員会からの報告
  - ① 1 月冬山行（鷹ノ巣山）の結果について
  - ② 2 月厳冬期山行（三方倉山）計画について

(4) 第 35 回東北北海道地区集会特別委員会からの報告

① 第 35 回東北北海道地区集会特別委員会第 1 回打合結果について

(5) 会報編集出版委員会からの報告

① 宮城山岳通信第 15 号発行について

#### 《審議事項》

- (1) 平成 31 年度支部事業計画・予算案(本部提出) について
  - ・ 平成 31 年度支部事業計画(案) について事務局提案の原案通りとすることを了承。
  - ・ 平成 31 年度支部事業予算(案) について、支部活動費、登山振興費、調査研究費、環境保全活動費の各費目ごとの収支予算書(案) について事務局提案の原案通りとすることを了承。
  - ・ 上記事業計画書および収支予算書を本部に提出することを了承。
- (2) 宮城支部設立 60 周年記念誌(宮城山岳第 23 号) 内容構成案について
  - ・ 宮城支部設立 60 周年記念事業特別委員会記念誌編集部会提案の 60 周年記念誌(宮城山岳第 23 号) 内容構成案を原案通り承認。
  - ・ 記念誌記事原稿の執筆分担者、執筆要領、原稿提出期日、提出先等を明記して、支

部会員・会友にアナウンスすることを了承。

《その他》

- ①平成 30 年度支部晩餐会&オークションの開催結果について
- ・2018 年 12 月 16 日に仙台市一番町のレストラン「シエルブール仙台」において盛会裡に開催され、オークション売り上げは 32,200 円であったことが報告された。

(事務局報告、遠藤代筆)

### ☆平成 31 年 2 月定例役員会議事録

日 時：2 月 13 日(水) 18:30~20:30  
場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室  
出席者：富塚支部長、遠藤副支部長、千葉、  
草野、千石、佐藤(昭)、富塚(真)、  
木皿、鈴木、高橋(二)

計 9 名

《報告事項》

○報告に先立ち故林田健治会員の冥福を祈り黙祷する。

- (1) 総務・財務委員会からの報告
- ① 山岳関係機関からの受理状況
- ・「訃報」日本山岳会だより
  - ・本部 2019 年度催事日程(予定)
  - ・ヒマラヤ登山(支部)の記録アンケートのお願いにつて
  - ・各支部の支部報電子版一覧ホームページ掲載のお知らせ
  - ・支部・委員会事業報告書・会計報告書提出のお願い
- (2) 山行集会委員会からの報告
- ① 1 月冬山山行結果について
- ② 2 月厳冬期山行計画について
- ③ 3 月早春山行計画について
- (3) 第 35 回東北北海道地区集会特別委員会からの報告
- ① 第 2 回打合せ結果について
- ・後援候補者について情報提供有

《審議事項》

- (1) 2019 年度支部事業計画について
- ・原案通り了承
- (2) 支部規約の一部改正について
- ・支部友会会員納入金を本支部運営会計に繰り入れることを含む支部規約改正案を原案通り了承し、次回総会における審議議題とすることを了承。
- (3) 支部友会会則の一部改正について
- ・支部規約改正に伴い、支部友会会則の一部一部を支部規約改正内容に沿って改正することを了承。

《その他》

- ① 次期役員及び各種委員会について
- ・指導・遭難対策委員会に関し、遭難発生時の組織編成についての意見あり

(事務局報告)

### ☆平成 31 年 3 月定例役員会議事録

日 時：3 月 20 日(水) 18:30~20:30  
場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室  
出席者：富塚支部長、遠藤副支部長、草野、  
柴崎、千石、富塚(真)、高橋(二)、  
木皿

計 8 名

《報告事項》

- (1) 総務・財務委員会からの報告
- ①山岳関係機関からの受理状況
- ・支部事業報告書・会計報告書について
  - ・全国「山の日フォーラム」出展につて
- (2) 山行集会委員会からの報告
- ①2 月厳冬期山行実施結果について
- ②3 月早春山行申し込み状況について
- ③4 月春山山行計画について
- (3) 第 35 回東北北海道地区集会特別委員会からの報告
- ①第 3 回打ち合わせ結果について
- ・参加費を 17,000 円に変更すること等について報告のうえ当該集会の実施計画を了承。

《審議事項》

- (1) 2019 年度支部総会資料（案）について  
 ・原案通りとすることを了承。但し各種委員会名簿その他の資料に追加の事。
- (2) 宮城支部規約の一部改正について  
 ・月例山行参加費を支部会員・準会員および支部友会員から徴収するための支部規約の改定案（総会審議事項）の作成を、遠藤副支部長に一任することについて了承。また、支部総会において本件を含む支部規約改定案が承認された場

- 合、その支部月例山行参加費を一人 500 円とすることを了承。
- (3) 新役員・新委員について  
 ・原案を一部修正のうえ了承
- 《その他》
- ①次期役員・各種委員名簿について  
 ②宮城山岳通信第 16 号の記事原稿作成依頼について  
 ② 2019 年度月例支部山行（登山）担当者について
- （事務局報告）

## 宮城支部山行報告

### ☆冬山山行（鷹の巣山）

#### （共益事業山行）

- ・ 実施日：平成 31 年 1 月 24 日（日）
- ・ 山 域：鷹の巣山（705m）（仙台市太白区秋保）
- ・ コース：秋保大滝駐車場——（車道）——登山口——主尾根——山頂——東尾根——枝尾根——大滝駐車場着——解散
- ・ 参加者：（会員）加藤知宏、草野洋一、佐藤昭次郎、千葉正道、冨塚和衛、鳥田笑美（準会員）遠藤幸壽（支部友会会員）鳥田伊志  
（計 8 名）
- ・ 報告者：佐藤昭次郎

今回の冬山担当との事で鷹の巣山を提案、意外や、登られていない会員が多い、近場にありながら・・・私は冬山入門最適の山だと思う。

案の定冬山初めての会員も参加、条件はカンジキ歩行とし 8 名で行った。

集合場所の二口大滝駐車場で簡単な打ち

合わせ後、車道を歩くこと 35 分、夏の登山口着。積雪は 5・60cm 位で例年の半分だ。そこで、カンジキ装着と歩行法を伝えて夏道沿いを進む。本来ならばスギ林で視界が無い場所だが、きれいに伐採してあり、野尻地区が丸見えだ。ここで休憩。西隣は三方倉山その右には大東岳のすそ野が広がる。そして名取川をはさんで高倉山が我々を見ている。小さなこの尾根を登路とし、先頭ラッセル交代をしながら奥羽山脈からは張り出す尾根へ立つ。見えなかった南側が葉を下ろした木々の間から、三森山、桐の目山が近い。ここで小休憩をとり、目前となった山頂へと進める。

山頂には標識らしいものは何もない、赤テープと古板に刻んだ山名の切れ端があるだけ。少し早いけど昼食とし雪上の窪地で穏やかに贅沢な時間となり会話に花が咲く。

時間が有るので雪洞構築か・・・反応が鈍い。スコップ 2 基と積雪量から判断して、短時間でツェルト利用して造る応急イグルーを解説した。また雪面でのロープの使用方などを皆で学習し、13:00 時予定の時刻に山頂を後にしました。右手にオボコンベを見ながら主尾根を分岐まで行き、稜線から離れ駐車場の前へ下りるコースを一気に下り 13:45 分駐車場着。14:00 時に次回の 2 月厳冬期山行を隣

の三方倉山を候補とすることとして散会した。

## ☆厳冬期山行（三方倉山）

### （共益事業山行）

- ・ 実施日：平成 31 年 2 月 24 日（日）
- ・ 山 域：三方倉山（704, 8m）（仙台市太白区秋保）
- ・ コース：秋保二口ビジターセンター駐車場——（車道）——登山口——主尾根——山頂——ビジターセンター駐車場着——解散
- ・ 参加者：（会員）太田正、加藤知宏、佐藤昭次郎  
（準会員）遠藤幸壽  
（支部友会会員）鳥田伊志

（計 5 名）

- ・ 報告者：佐藤昭次郎

真っ青の登山日和 再度私が担当となった。ビジターセンターにて登山準備をし、目の前の青空を背景に三角錐（三方倉山）を写真に納めた。おはようございますの声も晴れやかである。

1 月期の山行でも積雪量は書きましたが今年には少ないし暖かい、アイゼンは要らないと判断皆に周知、ピッケルを準備して入山、基本夏道のシロヤシオコースを辿るが、途中から右手側の尾根へ冬季ならではのコースとなる。はっきりとした尾根が判るまでがこのルート急斜面が続く辛いところである。そのために雪の状態が悪いと使えないルートでもある。

今年は幸いにもキックステップが気持ちよく効き高度を稼げる。氷化すれば勿論アイゼンの領域である。とり付くと休憩場所は尾根まで取れない斜面であり、足場を固めピッケルでしっかり安定を保ちながら短い休憩をとる。

振り返れば常に見ている磐司岩の衝立が、

普段見る事のない壁の裏側まで見る事が出来これが冬山の魅力である。雪庇と分かる尾根で一息入れ、雪の飛ばされた所々地が露出した尾根をつめると、奥羽山脈から平野部へと張り出す尾根との合流点。この場所が南方角の絶眺点である。今回は真っ青な中に蔵王山塊がいかにも大きく視界に飛び込んで、皆感激で声が出る。ここで休憩をとり緩やかになった尾根筋を辿るとすぐ山頂。

疲労感と空腹で山頂の雪丘で昼食とする。今回は 1 月期も参加の若い会員加藤知宏さんが参加して、隊そのものの活気が感じられる。食後担ぎ上げたロープを雪面へ固定しハーネスへの結び方や環カラビナによる半マストの利用法などを学習した。

その後同コースを下山。斜面が急なだけに慎重に下り 13:45 分駐車場に着き、解散とした。

## ☆早春山行（霊山）

### （共益事業山行）

- ・ 実施日：平成 31 年 3 月 23 日（土）
- ・ 山域：霊山 825m（福島県伊達市）
- ・ コース：霊山登山口（駐車場）～鍛冶小屋岩～宝寿台～日暮岩入り口～国司沢～天狗の相撲場～護摩壇入り口～護摩壇～霊山城跡（WC あり）～東物見岩（頂上）～学問岩～蟻の戸渡り～望洋台～弘法の突貫岩～弁天岩入り口～日暮岩入り口～登山口（駐車場）
- ・ 参加者：（会員）草野洋一、千石信夫、富塚和衛、富塚真味子、鳥田笑美、横山哲  
（準会員）遠藤幸壽  
（支部友会会員）蔭山美緒子、川島郁子、白田昭一、津田久美子、鳥田伊志、村上せつ子、村上敏郎  
（一般）遠藤久美子、千石裕子  
（以上宮城支部関係者 計 16 名）  
（上記以外に福島支部関係者 計 11 名参加）

・報告者：千石 信夫

今回の早春山行は霊山で開催するにあたり富塚支部長から地元福島支部にも事前に案内させていただいた。その結果、思いもよらず福島支部から11名も参加していただくこととなり、我が支部からは会員6名、準会員1名、支部友7名、会員外2名、合計16名、総勢27名のパーティーとなった。予期せぬ福島支部との楽しい交流山行となった。

登山口駐車場に9:00集合し福島支部の皆さんと合流し福島支部長の佐藤さんから歓迎のご挨拶をいただき、各自身支度後9:30出発した。

天候は、晴時々曇り、吾妻山方面からの西風を受け一日気温は低かった。

登山ルートは福島支部で親子登山推奨のルートを選定した。登山口から鍛冶小屋岩を通り宝寿台そして見下ろし岩などから眺望を楽しんだ。残念ながら曇天の為吾妻山や安達太良山などの稜線までは眺めることはできなかった。この地では春とは言え未だ花な

どは見られなかったが、唯一麓にマンサクが咲いていたのが私たちに春を感じさせてくれた。霊山城跡で早めの昼食をとり最高峰の東物見岩へ向かう。東物見岩山頂からは昨年の早春山行で登った青麻山など蔵王方面山々、船岡方面そして阿武隈山地の峰々、鹿狼山～深山～四方山などが眺められた。しばらく樹林帯を通り蟻の戸渡り、望洋台に向かうその後、弘法の突貫岩をとおり日暮岩入口に到着、その後は登りと同じルートを下り午後1時に登山口駐車場に全員無事下山した。霊山の麓に福島支部会員所有の山荘があるので是非とお招きいただいた。山荘は、手作りといった山小屋で中に入ると薪ストーブが煌々燃えており冷えた体を温めてくれた。さらには暖かいコーヒーを入れていただき福島支部の皆さまの心がこもるおもてなしを受けた。しばし懇談会となり、これからも宮城と福島での交流を深めていきたいとの思いが一致し再会を期して散会となった。最後に福島支部の皆さまに楽しい交流ができましたこと心よりお礼を申し上げたい。

## 山行以外の宮城支部行事開催報告

今号では宮城支部以外の日本山岳会関係行事等への参加報告はありません。

## 宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

### ☆ 支部連絡会議及び講演会参加報告

報告者 富塚和衛

平成30年12月1日(土)、本部主催の支部連絡会議が京王プラザホテルにおいて、平成30年度年次晩餐会記念講演会の前に開催され、

これに参加したので報告する。

小林会長の「国民が自然や山に触れてもらう機会を多く持つことが日本山岳会の役割でもあり、支部においても家族登山などの活動をお願いしたい旨」の挨拶があり、その後、永田弘太郎総務担当常務理事司会の元、会議が進められた。議題として、①2019年度「特別事業補助

金」募集の案内、②平成 30 年度第 8 回登山教室指導者養成講座講習会実施要項について担当理事から説明があった。続いて、③各支部からの回答及び提案について、これは事前に本部の方から「支部の問題点と本部への要望」「会員増強のために支部で新たに考えている事案」「会の運営に対する支部からの提案」に関するアンケートがあり、連絡会議の主議題として時間をかけて行われた。主だった岩手支部、栃木支部、東京多摩支部、東海支部、関西支部から主に会員増のための取り組みが紹介され、意見交換が行われた。

概して、元気な支部は公募登山や登山教室などの公益事業を、工夫を凝らし積極的に開催しており、計画的な登山技術に関するスキルアップのためのカリキュラムなども整備されている。また、メディアを有効活用している支部もあった。一方で、指導者の高齢化が進み、登山

教室等を開催したくても出来ない実情報告も多数支部からあった。

本部への要望としては、会費の減額、ホームページリニューアルのための講習会等の提案があった。

皇太子殿下ご臨席のもとに午後から開催された記念講演会にも参加し聴講した。講演会内容は以下の通り。

◎「山と旅」夢枕獭氏

◎「チョゴリザ初登頂 60 周年記念」京都大学学士会チョゴリザ登山隊

◎第 20 回秩父宮記念登山賞受賞記念講演「日本の山岳景観」小畦尚会員

◎海外登山報告「Cerro Kishtwar Expedition 2018」鳴海玄希氏

◎海外登山教室「日本山岳会青年部チャムラン登山隊 2018」青年部チャムラン登山隊 2018

## 日本山岳会宮城支部の平成 31 年 4 月～平成 31 年 7 月の行事予定

### ◎平成 31 年 4 月

☆4 月上旬

宮城山岳通信第 16 号発行

☆4 月 13 日（土）

春山山行（蛤山）

☆4 月 21 日（日）

平成 31 年度総会（仙台シルバーセンター）

### ◎2019 年 5 月

☆5 月 3 日（金）～5 日（日）

積雪時登山技術講習会（蔵王一高山小屋）

☆5 月 7 日（火）

第 35 回地区集会第 4 回打合（仙台シルバーセンター）

☆5 月 19 日（日）

第 8 回親子登山教室（戸神山）

☆5 月 23 日（水）

定例役員会（仙台シルバーセンター）

☆5 月 25 日（土）～26 日（日）

第 35 回全国支部懇談会（奥日光）

### ◎2019 年 6 月

☆6 月上旬

宮城支部設立 60 周年記念誌（「宮城山岳」第 23 号）発行

☆6 月 9 日（日）

第 7 回登山教室（山域：未定）

☆6 月 22 日（土）

本部 2019 年度通常総会（東京主婦会館プラザエフ）

☆6 月 26 日（水）

定例役員会（仙台シルバーセンター）

☆6 月 29 日（土）～7 月 4 日（日）

ヨーロッパアルプストレッキング（チロルアルプス）

### ◎2019 年 7 月

☆7 月 11 日（水）

定例役員会（仙台シルバーセンター）

☆7 月 29 日（水）

ビールパーティー（ホテル JAL シティ仙台）

## 編集後記

平成 30 年度通して「宮城山岳通信」を、3ヶ月に1回定期的に宮城支部関係者の皆さんにお届けすることができたことに安堵しております。この「宮城山岳通信」の発行によって、宮城支部の関係者に支部活動結果とこれからの活動内容をよく知っていただけたのであればうれしく思います。また、今年度からは電子ファイル送信によって日本山岳会本部および他支部にも「宮城山岳通信」を配信しておりますので、全国的にも宮城支部の活動をより時間遅れなく知っていただくための広報誌としての役目を果たすことができたのではと思っております。

会報編集出版委員会では、平成 31 年度（本年 5 月からは「平成」から新しい元号に変わることになっておりますが）も支部のニュースレターとして「宮城山岳通信」を3ヶ月毎に定期的に発行することにしております。また、これに加えて本年の 6 月には、日本山岳会宮城支部設立 60 周年記念誌（「宮城山岳」第 23 号）を発行することにしております。これらの会報と記念誌の発行は、宮城支部関係者の皆さんのご協力とご支援がなければとうてい実現できません。引き続き、宮城支部の会報発行に対する皆さんの大きなご支援を宜しくお願いし編集後記といたします。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

### 宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2019 年 4 月 8 日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中 9-12 Tel・Fax 022-255-7398